

# 動物用 酸素濃縮装置

医療機器承認器

## クリネア-smart-plus<sup>®</sup>



### 3つの特長

#### 動物用ICUへの接続

##### 通常使用モード

- 最大13L~14L 高流量酸素供給可能
- 手動で流量調整可能
- 酸素濃度は流量によって変化

酸素流量 (L/min)	3L	5L	10L	13L	14L
50Hzの場合					
酸素濃度 (%)	94	89	58	50	45
60Hzの場合					
酸素濃度 (%)	94	91	62	53	51

※参考値

#### 動物用麻酔器への接続

##### 麻酔器接続モード

- 流量1L~3Lの間で酸素濃度を調整可能  
酸素濃度は30~90%の間を10%刻みで設定可能
- 設定した濃度に達するまで5分程度

#### 安心の最新装備

##### IOT機能

- 遠隔モニタリング機能搭載
  - 性能低下、不具合を検知
- ※遠隔モニタリングとは  
●テルコムにてモニタリング(営業時間内)

#### 動物用酸素濃縮装置 クリネア-smart-plus

メーカー希望価格 440,000円(税込)

一般的名称:呼吸補助器(管理医療機器)  
動物用医療機器承認番号:6動薬第2049号  
寸法:高さ580mm×幅365mm×奥行312mm  
重量:17kg  
定格電源:AC100V 50-60Hz 電源入力:420VA  
感電に対する保護:クラスII 回B形装着部  
基本性能:酸素濃度90%±4%(酸素流量1~5L/分)  
酸素濃度50%±4%(酸素流量13L/分 50Hz)  
酸素流量1~15L/分(手動調整)  
騒音レベル:45dB(A)以下  
(正面1mの距離 1分間平均値 60Hz)  
消費電力:300W/50Hz 330W/60Hz  
保証期間:1年  
耐用期間:製造出荷後6年(自主基準)  
(条件)3年に1回又は12,000時間何れかの早い方でオーバーホール

#### 付属品



お問い合わせは…  
テルコム株式会社

横浜営業所 / 045-947-2903  
大阪営業所 / 06-6460-7007  
福岡営業所 / 092-408-8021  
狭山事業所 / 04-2937-4776  
営業時間 9:00~18:00 ※年末年始 9:00~17:00(年中無休)



# 「いつでも、どこでも」利用できる 診療に必要な機能が詰め込まれた酸素濃縮装置



「日々の診療に“最適”な酸素濃縮装置」。「クリネア-smart-plus」の魅力についてそう語るのは、JARMeC(日本動物高度医療センター)で循環器科/呼吸器科の医長を務める佐々木崇文先生です。酸素療法を行う意義や気軽に酸素療法を実施できる当製品の特徴について、佐々木先生にデモを実施いただきお話を伺いました。

## 日々の診療に“最適”な酸素濃縮装置



### 酸素療法を行う意義を教えてください。

「酸素化による患者負担の軽減」です。疾患の内容に関わらず、酸素化が必要になる患者では、体の組織における酸素供給が十分ではない状況です。しかし、併せて考えなければならないことは、そのような患者の大半は「苦しさ」を感じているということです。

緊急来院した患者のどこが悪いのか、そこが明確になっていることは少なく、さまざまな検査で原因を突き止めなければなりません。しかし、「苦しい」状態で無理に検査を進めると、酸素不足による体の負担と「苦しさ」からくる過度な興奮により、切迫した状態に陥ることも少なくありません。ケースバイケースではありますが、酸素化により全身状態を安定化させるとともに、「苦しさ」を改善しつつ呼吸状態をみながら検査を進める必要があります。

### 本製品を実際に使用した感想を教えてください。

どこにでも設置できる「使い勝手の良さ」に魅力を感じました。患者数の増加に伴い設置する機器も増え、想定外の場所で酸素投与が必要となっています。以前は移動式の小型酸素ポンプを用いていましたが、酸素濃縮装置は酸素切れの心配やポンプ交換が必要ないため、実用的でした。

また、思っていた以上に静音性が高いことにも驚きました。状態が悪い患者だと、酸素療法を実施している場所に飼い主様を

案内し、動物の状態をみてもらいながらお話することもあります。機器の音は気になりません。

### 本機の使用で特に注意したことはありますか？

第一に考えたのは「安全性」でした。デモ使用前に既存のICU機器に接続し入念なテストを行い、問題なく規定の酸素濃度で管理できることを確認しました。また、不具合が生じた際に遠隔で機器の状況などを把握してもらえることも、非常に安心できるサポートだと感じています。

### 今後はどのような応用を考えていますか？

ICU接続以外ではネブライザー療法での活用です。呼吸状態が悪い患者はICUによる酸素療法を必要とすることが多いのに対し、多くのICU機器ではネブライザー機器の使用は禁止されています。そこで、一般ケージにネブライジングドアを設けてネブライザー療法を実施するのですが、今度は酸素供給ができなくなります。特に、肺の状態が悪い際に酸素供給が不十分になると、患者は浅速呼吸となり、薬剤が肺の隅々まで行き届かなくなる可能性があります。酸素療法の併用で呼吸が落ち着き、肺の奥まで効率的に薬剤を届けることができると考えています。

また、麻酔器モードが搭載されていることから、複数の患者で挿管管理が必要となった場合の移動式麻酔器での呼吸管理にも応用できるか、活用を検討しています。

